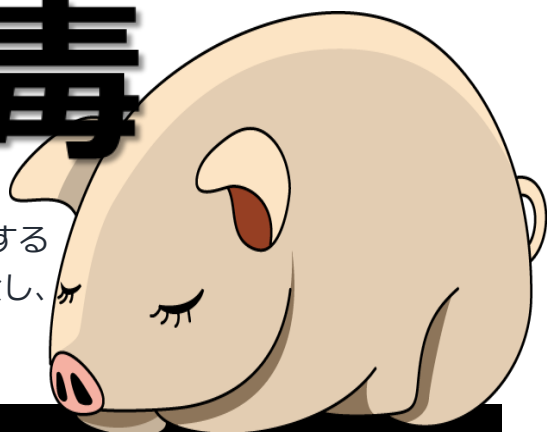


伝染病の予防のために 無駄なく 隙なく車両消毒

豚流行性下痢(PED)をはじめとした伝染病の発生予防、伝播防止のために、農場やと畜場を出入りする車両の消毒は欠かせません。再度、車両消毒方法を点検し、手間を惜しまず、より効果的な対策を実施しましょう。



消毒前に洗浄を忘れずに



敷料、糞便などの汚れがあると消毒薬の効果が得られません。まずはしっかりと汚れを洗い流しましょう。

荷台に残った汚れから
細菌やウイルスが検出
されています。

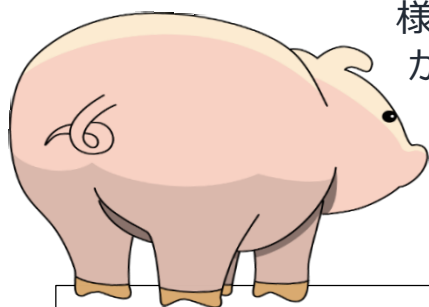
ドライバーの身の回りもチェック

運転席のマット、ハンドルなども要注意です。洗いやすいゴムマットの設置、霧吹きによる身の回りの消毒などが有効です。

トラックに備え付けた
長靴ボックスからもウイルスが
検出されています。



消毒の徹底のために



様々な種類の病原体に効果がある炭酸ナトリウムの使用が推奨されています。石灰消毒も有効ですが、動力噴霧機などを使い、消毒液を車体に隙間なく散布することが重要です。1回の消毒で全ての病原体をゼロにすることはできません。消毒を繰り返すことが大切です。

写真、ウイルス検出等の情報についてはJA 鹿児島県経済連の御好意により使用させて頂いています。

連絡先



車両消毒チェックシート

ドライバーの方はご自身の消毒方法の再点検をお願いします。

車を迎える施設の方もドライバーになった気持ちで施設の点検をお願いします。

消毒の準備

- 消毒前の洗浄
消毒前にしっかり洗浄しましょう。泥や糞便があると、消毒薬の成分が壊れたり、車体まで届かなかったりします。
- 消毒薬を選ぶ
目的にあわせた消毒薬を使いましょう。病原体によっては、一部の消毒薬でしか効果がない場合があります。様々な病原体に効果がある炭酸ナトリウムなどが推奨されています。
サビ、車体の汚れが全く生じない消毒薬はありません。消毒後の洗浄などの体制についても準備しておくことが重要です。
- 消毒薬の組み合わせ
消毒薬が混ざらないようにしましょう。アルカリ性の消毒薬(石灰や炭酸ナトリウムなど)と酸性の消毒薬(塩素系やヨード系)が混ざってしまうと効果が得られません。

重点消毒ポイント

- 荷台
消毒の前にしっかりと洗浄しましょう。汚染されやすい場所であり、しかも糞便等の汚れが消毒薬の邪魔をします。
- タイヤハウス
しっかりと洗浄し、丁寧に消毒薬を噴霧しましょう。こびりついた泥と複雑な構造がネックです。

忘れやすい消毒ポイント

- あおり
丁寧に消毒しましょう。汚染されやすい場所にありますが、構造が複雑で細菌やウイルスが残りやすくなっています。
- 長靴ボックス
身に着けるものは丁寧に消毒し、きれいな場所に片付けましょう。汚れやすい場所ですが、見落とされがちです。
- 運転席まわり
シート、ハンドル、マット
アクセルペダル など
シートやハンドルは霧吹きなどを利用して消毒しましょう。発生農場のトラックの運転席からPEDウイルスが検出された事例もあります。汚れやすい運転席マットは簡単に洗えるタイプを選びましょう。

その他

- 繰り返す
繰り返し消毒しましょう。1回の消毒で病原体はゼロにはなりません。繰り返して、ゼロに近づけていくことが大切です。